

ぜん ぎょう じ
善巧寺報

6 月号



月刊 ● 善巧寺報

〒344-0032 埼玉県春日部市備後東4丁目1番17号
TEL 048(734)7660 榎本明覚

▼二〇二二年六月一日▲



● 梔子 (クチナシ) ●

雨が多く湿度が高くなってくる6月に咲くクチナシ。クチナシはガーデニアとも呼ばれ、キンモクセイ・ジンチョウゲとともに三大香木のひとつです。渡哲也さんのヒット曲『くちなしの花』で、その香りが歌われています。

季節の花

～ 梔子 (クチナシ) ～

定例法座

毎 月 十 一 日
◎六月十一日(金)午後二時〜三時

於 法輪会館

「お仏壇のある生活」

お仏壇の普及は、白鳳十四(六八五)年に天武天皇が出した「諸国の家毎に仏舎(ほとけのおおとの)を作り、乃ち仏像(ほとけのみかた)及び経を置きて以て礼拝供養せよ」という詔に端を発していると言われます。この詔を受けて貴族の邸宅には仏像を安置する厨子が設けられていきます。上流階級ともなると、厨子にあきたらず敷地内に持仏堂を建てるようになります。十円玉の凶柄になっている宇治の平等院鳳凰堂はお寺と言っているほどの壮麗な建物ですが、実は藤原頼道の持仏堂(個人の所

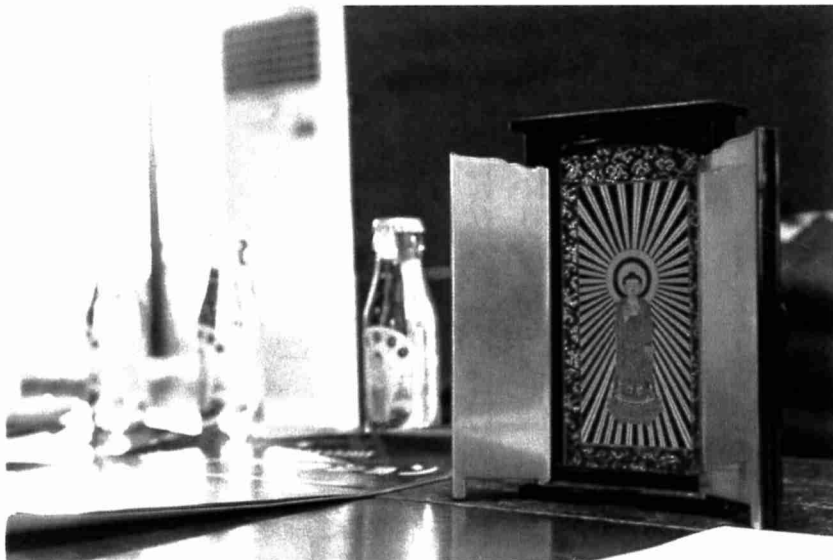
有)でした。しかしながら天智天皇の詔は、貴族官吏に向けてのものであり大多数の庶民は仏教とはほとんど縁無く過ごしていたものと思われまます。

一般家庭へのお仏壇の普及は、室町時代本願寺第八代蓮如上人が、宗祖親鸞聖人が「帰命尽十方無碍光如来(南無阿弥陀仏の漢訳)」という文字を書き、掛け軸として日常の礼拝をされていた、という故事に基づき、これを門徒方に配布したのが大きなきっかけとなりました。それまでは名だたる仏師が経文や故事と相違ないよう制作し、開眼供養された仏像こそが最も有り難い本尊たりえる、とされていたのが、直々に「お前を決して捨てないからたよりにしておくれ」と呼んで下さる仏の真心を言葉として表した「南無阿弥陀

仏」こそ何より一番尊い「本尊」である、という価値の一大転換が起こったのでした。蓮如上人は請われれば断ることなく「南無阿弥陀仏」の本尊をその場で書き与えられたと伝わっており、ご自身も日本で一番「南無阿弥陀仏」を書いたのは私であろう、と述べられています。こうしてご本尊を安置する事は、一般家庭に急速に広まり、書院造りの住宅が増えると床の間がご本尊を懸け礼拝する場(「仏壇」となっていました。それをコンパクトにしたのが箱型仏壇で、この様式が広まるのは江戸時代になってからになります。最近では床の間のある住宅も激減し、洋風の現代仏壇などもあります。色や形は変わっても日々の感謝や反省を新たにする場、お仏壇のある生活は、私たちの日々の心

のよりどころとして非常に重要な役割を果たしているのです。

昨今の住宅事情に合わせて、本願寺から安置場所を選ばないミニサイズのご本尊も出ています(左写真が一番小さなお仏壇「きく」)。



みほとけ会月例会

★ ZOOM ミーティング ★

みほとけ会では感染対策のため引き続き、ZOOMを用いたインターネット法話座談会を開催中。ただし、「真宗十派の歴史」を学んでいます。

開催日時は、

毎月第一木曜日、第三木曜日

午後八時開始・九時終了

参加ご希望の方は、

jefidget@gmail.com

◆◆春日部だより◆◆

◎ワクチン接種も徐々にスピードアップしているようで、このコロナ禍もようやく先が見えてきたか、といった感があります。ただもう少し辛抱が必要です。こまめな手洗い、マスクがずれていないか、他人との会合時、飛沫を飛ばしたり吸い込んだりしないよ

う出来ているか、今一度各自チェックしましょう。

◎そのような事態で本年の永代経、そして前住職の十七回忌もリモート配信による法要となってしまうかもしれません。このような困難な中でもご門徒の皆様のお励まし、ご支援を頂きながらお勤めは無事円成させていただく事が出来ました。厚く御礼申し上げます。

